

『第3回 ISO14001(環境マネジメントシステム)の構築ポイント』

(株)環境セキュリティ・システム研究所 代表取締役 米ヶ田 健司

★“ISO14001規格の本質”(詳細は、[福岡市経営支援課や専門家にお尋ねください](#))

“環境”というテーマのもと、トップの“方針”と“目的・目標”を決め、必要な計画や手順・文書を活用して活動し、チェック・記録し、問題があれば是正し、より高い目標に向かって、**継続的改善活動**をしていくという会社・組織の“**仕組み**(「計画－実施－点検－見直し」)”を持つことです。

“どこまでやればよいか”と、常に聞かれます。答えは、法律を守ること以外は、自分たちの会社・組織にとって重要だと思うことを“**自分たちで決める**”ことです。ISO9001同様に、ISO14001にも、固定的な基準やレベルといったものはありませんし、審査での合格基準も数値基準などありません。

“ISO14001構築のポイント”は、…

①現状分析に力をいれる;

自分たち仕事と環境とのつながりは何か、つまり現状分析をしっかりとやって、会社にとって環境面で重要だと思うことを明確にすることが最も大切なことです。

②守りと攻めの両面から;

環境というと、ついつい公害、ゴミ問題など悪い(有害な)方からのアプローチになりがちです。ISO14001への取り組みのテーマとして、“紙・ゴミ・電気”がお決まりのパターンですが、すべて“守り”の側面です。このようなテーマばかり追いかけていても、“攻め”の側面に目を向けないと長続きしません。

③攻め(=有益な)の側面は;

発想の転換をし、自分たちの本体業務に着目しましょう。例えば、確かに“紙の使用を節約”(=守りの側面)すれば、森林資源の保全や会社の消耗品コストの削減に役立ちます。大企業ならメリットが大きいかもしれませんが、中小企業は？ 自分たちが売っている商品・サービスを環境配慮型にすることで、売り上げを伸ばし、かつ社会にも環境面で貢献できることが、重要ではないか、構築時によく考慮することです。

④経営者がリーダーシップを取り担当者任せにしない;

前回(第2回)参照

⑤立派な文書(マニュアル・手順書)を作ろうと考える;

前回(第2回)参照